

高めよう！自分の力と友だちの力！心をひとつに！5年生！！

～豊かな自然や人とのふれあいを通して～

安芸高田市立刈田小学校・根野小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 社会奉仕 自然 勤労生産 交流

体験活動場所・宿泊場所 三原市鷺浦町・三原市青年の家（さぎしまセミナーハウス）

【学校紹介】

	刈田小学校	根野小学校
概要	<p>○安芸高田市は広島県の中北部山間地域に位置し、自然に恵まれた地域である。 八千代町には刈田小学校と根野小学校の2小学校と1中学校があり、小中連携・小小連携を進める中で、2小学校では5年生の宿泊体験活動や6年生の修学旅行などを合同で実施している。 地域や保護者は学校教育に協力的で、学校と家庭と地域による「協育」を行っている。</p>	
		
校長名	松原美和子	平川博秀
児童数（学級数）	51名（4学級，特支2学級）	101名（6学級，特支1学級）
所在地	安芸高田市八千代町勝田 1651	安芸高田市八千代町上根 33-1
電話番号	0826-52-2009	0826-52-3002
URL	http://www.karita-e.hiroshima-c.ed.jp/	http://www.neno-e.hiroshima-c.ed.jp/

【体験活動のねらい】

同じ中学校に進学する子どもたちが、複数泊の宿泊体験活動を通して、お互いをよく知る機会とし、自主性・自律心・協調性を培うことを目的にする。自然環境が大きく異なる臨海地域を宿泊先に設定し、地域特有の生活・文化・産業にふれるとともに、そこに暮らす人々・学校との交流を通して、自分たちの生活する地域を見直す機会とする。また体験を通じてコミュニケーション能力や人間関係形成能力の育成を図る。

【重点目標】

- ① 寝食を共にし、同じ体験をすることで、2校の児童がお互いをよく知りあう。
 - ・宿泊体験活動を通して、自主性・自律心・協調性を培う。
- ② 海での体験活動を通して、自然や生活に対する見方を広げる。
 - ・自然観察によって海に対する興味を広げ、理解を深める。
 - ・地域特有の生活や文化への理解を深める。

③ 地域の人々や学校との交流活動を通して、社会性を育てる。

・地域の人々や学校との交流を通して、コミュニケーション能力や人間関係形成能力を育てる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月	環境学習 「課題設定」 自分たちが生活する地域の文化や自然環境について調べる課題を設定する。 「課題別に調べる」 聞き取りや書籍等を使って、課題解決に取り組む。	4	総合的な学習の時間	各学校	担任
	「駄菓子屋の前の歩道」「星野君の二るい打」4－(1) 社会生活上のルールや基本的なモラルをもって、自他の権利を大切にしようとする態度を育てる。	1	道徳	各学校	担任
	「さまざまな土地のくらし」 海に囲まれた地域で盛んな産業について考え、自分たちの住む地域と比較する。	2	社会科	各学校	担任
	「5年生の顔合わせをしよう」 宿泊体験の意義について考え、役割分担を行う。	2	学級活動	根野小学校	担任
7月	「一ふみ十年」3－(2) 自然の偉大さを理解し、自然を愛護する態度を養う。	1	道徳	各学校	担任
	「台風と気象情報」 山間部と島嶼部との気温や天気の違いを考える。	2	理科	各学校	担任
	「次への一歩」 活動したことを読む人に分かるように報告する。	1	国語科	各学校	担任
8月 24日 (月) ～ 23日 (木)	集団宿泊活動 自然体験活動 沿岸部や海での体験活動を通して自然の豊かさや環境保全の大切さについて学ぶ。 勤労生産活動 海辺の清掃活動を通して自分たちのできる社会貢献について考える。 地域交流体験活動 宿泊体験活動や地域の人々との交流を通して社会性を育成する。	24	学校行事 (特別活動)	三原市青年の家 鷺浦小学校 大野浦海岸 長浜海岸 白須農園みかん畑 向田和霊石地藏 ふるさと館	担任 海の達人 佐木島ボランティア アガイドさん みかん園(白須さん) 鷺浦小学校教職員

9月 ～ 10月	「体験したことをまとめよう 生活の中にかそう」 体験したことをレポートにまとめたり、地域で活動したりする。	4	総合的な 学習の時間	各学校	担任
	「気持ちを合わせて」4－(3) 集団の中で自分の役割を自覚し、協力し、主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。	1	道徳	各学校	担任
	「豊かな言葉の使い手になるためには」 情報を整理し、関連づけて自分の考えをまとめる。	4	国語科	各学校	担任
	「宿泊体験の振り返りをしよう」 目標や課題について振り返り、今後の生活の中にかかしていく。	2	学級活動	各学校	担任
11月 ～ 12月	成果発表会 ○成果発表会において根野小学校・刈田小学校それぞれの学校で児童・保護者・地域へ成果を発表する。 体験活動で学んだことを国語・総合的な学習の時間を中心にまとめ、学習発表することを通して郷土や自然を愛する心や課題解決能力を育成する。	7	総合的な 学習の時間	各学校	担任

【体験活動の概要】

○海辺の清掃活動（奉仕活動体験）

佐木島ボランティアガイドの方とともに、宿泊施設近辺の浜辺や島内の海水浴場の清掃活動を行った。自然環境を大切に、ふるさとの自然を守ることについての学習はこれまで行っている。捨てられたゴミが海を越えて外国にまで流れていくことや、島の方の海の環境を守る思いを知ることで学習を深めることができた。



○鷺浦小学校との交流会（交流体験）



山に囲まれた八千代町と海辺にある鷺浦小学校では生活環境が大きく異なる。自分たちの地域について知らせ、鷺浦小学校からも様々なことを学ぶことを前提に学校紹介の準備を行った。準備の段階で自分たちが生活する地域のよさを再発見する機会となり、紹介することによってふるさとの誇りも感じる事ができた。鷺浦小学校からはクイズ形式で佐木島のことを教えていただくことができた。その後ゲームを行い交流を深めることができた。

○海辺の自然観察（自然体験）

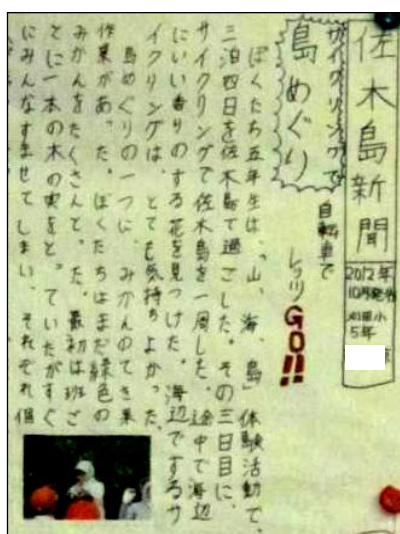
事前にシュノーケルの使い方やライフジャケットの装着体験については、2校が合同でプールを使って練習をし、海での活動に備えた。海のスペシャリストの方の指導のもとに、海辺の生き物を観察したり、水中に潜って魚を見たり、海水からできた塩を食べたりするなど、日常では体験することが難しい活動を行うことができた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

○総合的な学習の時間「体験したことをまとめよう 生活の中にかそう」

体験活動を行った際の写真や動画を手がかりに、3泊4日の活動を振り返り、学んだことや感じ



たこと、体験したことを新聞にまとめ発表することにした。3グループに分かれ、①ごみ拾いと海辺の体験、②グランドゴルフと星空観察、③鷺浦小学校との交流、島めぐりとみかんの摘果作業について新聞にまとめ、参観日に3年生以上の児童と保護者に向けて発表を行った。発表の準備や成果発表の中で、郷土や自然を愛する心が育まれ、課題解決能力の育成につながった。

【交流先や施設等との連携】

事前○2小学校が連合で実施することから、2校の教職員で活動内容、日程、危機管理体制、全体のスケジュール、準備物、予算等について4回の打合せ会を行った。

○宿泊施設であるさぎしまセミナーハウスに引率する教員で下見に行き、島での移動手段や食事、緊急時の対応について現地で確認した。佐木島のボランティアガイドの方とも活動内容について打合せや指導の依頼を行った。

○交流先の鷺浦小学校や、海での活動を指導していただく方とは、電話やファックス等で連携を行った。

活動中○ボランティアガイドの方とは常に緊密に連携をとり、活動内容の確認、準備を行った。

事後○体験活動中にお世話になった方（セミナーハウス、ボランティアガイド、鷺浦小学校、みかん農家、海のスペシャリスト等）へお礼の手紙で感謝の気持ちを伝えた。

（児童「お礼のお手紙」より）

おいしいカキやサザエを取ってくださってありがとうございました。ぼくは、海が好きで、亀川さんが海に入るすがたを見て、ぼくも亀川さんみたいになりたいなと思いました。佐木島に来て、いろいろな体験をした中で、ぼくが、一番好きだったのは、亀川さんです。初めて自分の手で採ったカキを食べてみておいしかったけど亀川さんが取ったカキやサザエのほうがとってもおいしかったです。

この他に、海の水をフライパンで煮てくださいました。ぼくは、何ができるのか楽しみに待っていました。すると塩ができてその塩を食べさせてくださいましたね。その塩を食べてみて、これはふつうの塩とちがうなと思いました。やっぱり亀川さんはすごいなと思いました。

【評価の工夫】

- 毎日振り返りを行い、感じたことを記録したり、佐木島の自然や人との交流、友だちの良さに気付かせたりして、達成感や意欲を高めさせた。
- 事後の学習では感想を文章に表したり新聞を作ったり劇で表現したりして自分や友だちの活動を振り返ると同時に、関わってくださった方々への感謝の思いをもたせ、お礼の手紙を書かせた。
- 新聞等にまとめたものや劇を他の学年や保護者に発表をする会を設け、改めて感謝の気持ちと学んだことを効果的に伝えさせる学習をさせた。

【安全面の配慮事項】

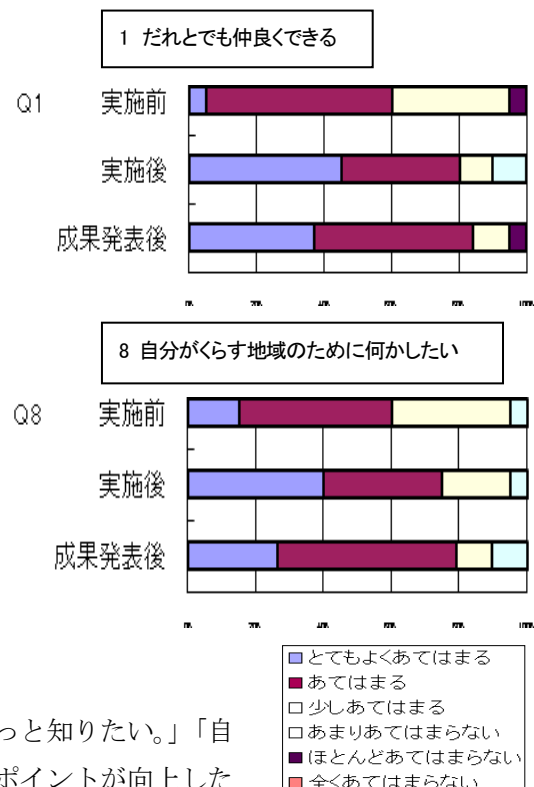
- 真夏の体験学習であり、炎天下での活動が予想されたため、熱中症対策を行った。(細めに水分補給し補給漏れを出さない確認、体調異常の早期発見のために計画の中に健康観察を位置づけ、炎天下の活動時には首に保冷剤などを巻いた。) 介助を必要とする児童については、常時引率者が付き添い活動を支援した。介助に関わる職員の担当分担表を作成し、一覧表にして確認した。
- 水難事故防止のためのマニュアル作成とシミュレーション実施。職員の参加体制を強化し、監視を万全にした。事前の下見では干潮時の海辺の様子が把握できず、予想以上にカキ筏等による負傷があった。
- 自転車の事故防止対策。島内の移動は自転車を使用するため、引率職員の配置、伴走の工夫、ボランティアの方の道案内、車での後方支援を行った。
- 急病や食中毒が出た時を想定した危機管理マニュアルを作成。緊急時の対応について予想されるケース別にフローチャートを作成した。



【体験活動の成果と課題】

<成果>

- 初めて活動を共にする2校の児童の不安感を取り除くために事前にオリエンテーションとして顔合わせの会や班の目標決め、プールでのシュノーケルとライフジャケット装着体験などを行った。児童は徐々に打ちとけていき、家族と離れて3泊4日の体験活動を行う中で「だれとでも仲良くできる」気持ちが高まっていった。
- 初めて会う2校の児童は、馴れ合いの関係でなく、ほどよい緊張感をもって取り組めた。特に目標を決めたり、一緒に活動したりする際に自分とちがう意見や考えを受け入れて新しい仲間として協力していくことができ、このことは2校で取り組んだ成果としてあげられる。佐木島の人々や鷺浦小学校との交流により、「自分がくらす地域のことをもっと知りたい。」「自分がくらす地域のために何かしたい。」という項目のポイントが向上した



と考える。

- 2学期から学校生活でも、夏休みの仲間との思い出をベースにともに頑張っていこうとする姿勢が見られた。地域公開や学習発表会に向けて意欲的にまとめ、保護者や地域の方に発表することができた。また、体験活動でお世話になった方や収穫したミカンを送っていただいた方へ礼状を書いた。児童の書いた手紙を見ると、お世話になったことへの感謝や、ボランティアガイドの方を敬う気持ちなどが書かれてあり、人とのつながりを感じた。

(保護者の感想より)

体験活動の発表をこのたびの学習発表会で初めて見させてもらいました。色々な人との交流、友だちとの交流など、改めてよい体験をさせてもらったと実感しました。子どもも振り返ることで、楽しかった日々を思い出し、新たな発見を語ってくれたりもしました。お世話をされた先生方は、とても大変だったと思います。ありがとうございました。

<課題>

- 「自分たちのくらす地域のこともっと知りたい。」「地域のために何かしたい。」と感じたことを実行していくような活動をさらに仕組んでいくことが重要である。
- 3泊4日の体験活動を通して、子どもが成長したと肯定的に感じられた保護者は、85%（成果発表会后 94%）だったが、自由記述の中には「体験活動についてはよい体験ができたと思う。しかし、家に帰るといつものわが子です。今のところ変わった様子はありません。これから先、体験活動を通じていかされることがあれば成長を見られるかもしれませんが…。」「良い体験だったと思うが、成長したと感じるまではない。」等の記述もあり、今後、体験活動の成果を児童の姿に反映させ、児童の様子を発信し、保護者の理解を図っていく必要がある。